

消防職員の派遣 14人が行方不明者の捜索活動などに従事



▲被災地での活動の様子

①宮城県本吉郡南三陸町（3月14日～同20日）、4月18日～同24日・宮城県亶理郡山元町3月26日～4月1日、4月15日～同21日）。
②行方不明者の捜索活動、倒壊家屋などからの人命捜索、災害警備。
③消防ポンプ自動車の座席や野営（テント設置）、宮城県角田市総合体育館に宿泊。食事は、持参したカップ麺・缶詰や、県支援隊による炊き出し（ご飯・レトルト食品）。
④現場が劣悪な状況で時間にも制限があり、捜索活動が困難でした。
⑤被災地での消防車両や消防資機材の燃料確保が困難を極めました。
⑥捜索活動が主なため、現地の人と話す機会も少ない中、被災者の「ありがとう」「ご苦労さま」の言葉が嬉しかったです。

行政職員の派遣

2人が証明・申請事務などに従事



▲申請書受付事務の様子

③宮城県内ビジネスホテルに宿泊。食事は、持参したレトルト食品・カップ麺や、炊き出し、配給されるパンなど。
④職員や来庁される住民の大半が家族や友人を亡くしているため、どう接すればよいか戸惑いました。津波により南三陸町役場の建物が流され、資料も失われました。瓦礫の中から見つかった資料は廃校になった学校などで乾かしながら保管していますが、泥や水で殆ど文字が読めない状態でした。また、全国から届く支援物資を被災者へ均等に配給することが難しかったです。
⑤「南三陸町のために来ていただいてありがとう」という言葉を沢山いただき嬉しかったです。支援物資の受付中に、栃木県から自動車で10時間ほどかけておばあさんと中学生ぐらいのお孫さんが来られました。車の中には自分の畑で取れたきゅうり・トマトなどの野菜がぎっしり。被災者の役に立てればとその言葉に胸が熱くなりました。
⑥町職員の4分の1を亡くした南三陸町は行政知識のある労力が不足しており、今後は新しいまちづくりのためにも長期的な支援が必要です。多くの人に被災地の現状を知ってもらい、支援につながればと思います。

猪名川町の職員、被災地で活躍。

被災者の「ありがとう」が過酷な業務の励みに

このたびの東日本大震災で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。
猪名川町では、震災発生後、被災地へさまざまな支援活動を継続的に行っています。今回は、被災地で支援活動に従事された町職員（消防業務・水道業務・行政事務関係）に取材した内容の一部を紹介します。
〔取材内容〕①派遣場所と期間②主な支援内容③被災地での宿泊・食事④被災地での苦労⑤被災地での思い出⑥その他メッセージ

特派員報告

いながわ



高橋 祐子



田野 香織

上下水道課職員の派遣

4人が給水活動に従事



▲被災地での活動の様子

①岩手県上閉伊郡大槌町と岩手県陸前高田市（4月1日～同7日、岩手県陸前高田市（4月19日～同25日、5月7日～同13日、5月25日～同31日）。
②病院・高齢者施設・小学校・保育園などの受水槽・緊急給水タンクや、道路脇に並べられたポリタンク・ペットボトルへの給水。
③岩手県内ビジネスホテルに宿泊。食事は、現地に入る前にコンビニエンスストアなどで購入。夕食はホテルへの帰路途中に飲食店を利用。
④現地で、大変な状況の中でも気丈に話される被災された人を前に、どう接すればよいか戸惑いました。給水タンク車を2人で交代運転しましたが、慣れない悪路の長距離運転のうえ、津波で建物などの目印がすべて流され地図も使えず、運転には苦労しました。
⑤被災者の「ありがとう」「ご苦労さま」の言葉が嬉しかったです。避難所であう子ども達は、明るく元気な支援活動の励みとなりました。
⑥今回のような震災に対応するべく、上下水道課では水道施設の耐震化を進めています。

町の復興支援事業

阪神支援チームを結成

猪名川町は、西宮市・宝塚市・川西市と兵庫県阪神支援チームを結成し、宮城県栗原市・登米市と連携して、東日本大震災により、庁舎等行政機能を失ったなどの甚大な被害を受けた南三陸町・女川町に対して、緊急対策および復旧対策の円滑な遂行と、行政機能回復に向けての協力・支援を相互に行っていくため、5月21日、5市3町にて「東日本大震災に係る災害応援活動に関する協定」を締結しました。

被災地の状況を見極め、連携を取りながら、人的・物的・経済的支援について、できる限りの対応をしていきます。
▼問合せ 総務課危機管理室（☎766・8703）
東日本大震災により町内に避難されている人に、避難元の自治体の情報提供などを行うため、避難者の情報の受付を行っています。
町内へ避難者に関する情報を寄せください
東日本大震災避難者の受入家庭（ホームステイ先）を募集
町内で1カ月以上の避難者の受け入れをお願いできる家庭を募集しています。受け入れにかかる費用などについては、原則受入家庭の負担となります。
また、町から南三陸町と女川町に50万円ずつ義援金を送っています。
置して受け付けています。6月17日現在で324万6959円が寄せられ、日本赤十字社に送金しています。

編集後記



今回取材した町職員の皆さんは、自身が阪神大震災で被災した人、阪神大震災でも支援活動に従事した人など、色々な思いがあります。再び支援要請があれば、もう一度志願したいと皆さんがいらっしゃるかもしれません。何よりも被災者の「ありがとう」の言葉が一番嬉しかったと、皆さん目を輝かせておられました。「いながわ特派員」